

**土砂災害に関する避難訓練  
シナリオ作成のための解説書  
(要配慮者利用施設版)**

**石 川 県**

**令和3年3月**



## 目 次

はじめに.....	1
1. 本解説書の使い方 .....	1
2. 訓練の目的 .....	1
1. 訓練の準備 .....	2
1-1. 訓練フローチャート .....	2
1-2. 訓練の概要 .....	3
2. 訓練シナリオの作成.....	7
2-1. 確認・準備事項 .....	7
2-2. 訓練シナリオを作成しましょう .....	8
2-3. 役割別の事前準備のポイント .....	13
3. 訓練の実施 .....	15
3-1. 実施にあたっての留意事項等 .....	15
3-2. 記録を残しておきましょう .....	16
3-3. アンケートの実施 .....	16
4. 訓練の振り返り .....	17
4-1. 「避難確保計画」への反映 .....	17



## はじめに

### 1. 本解説書の使い方

平成 29 年 6 月に土砂災害防止法が改正され、市町の地域防災計画に記載された要配慮者利用施設には、「避難確保計画」の作成と避難訓練の実施が義務づけられています。

しかし、本県の要配慮者利用施設による避難訓練の実施状況は 74.3%（104 施設／140 施設）（R3.3 時点）となっており、本県においても、要配慮者利用施設が円滑に避難訓練を実施することができるよう、要配慮者利用施設への支援強化が求められています。

こうしたことから、本県では、要配慮者利用施設の避難訓練の実践を推進するため、要配慮者利用施設版の避難訓練シナリオの雛形を作成しました。

本解説書は、避難訓練シナリオの雛形を活用して、施設の状況に即した避難訓練が実施できるように、地域の災害特性や被害想定に合わせた訓練の手順やシナリオの作成方法を解説するものです。

### 2. 訓練の目的

近年、局地的な集中豪雨により、大規模な河川の氾濫や土砂災害が多発しています。

避難訓練は、これらの災害から身を守るため事前に訓練することで、災害が発生した時に適切な行動をとり、被害を軽減することを目的としています。

継続的に「避難確保計画」に基づいて避難訓練を行い、現行の「避難確保計画」を検証し、訓練を通じて、「避難確保計画」の改善点が見つかれば随時見直し、より実践的での確な避難が可能となるような防災体制を構築していきます。

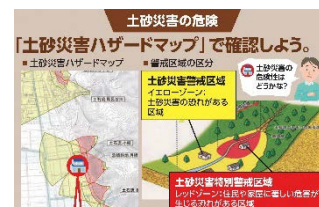
# 1. 訓練の準備

## 1-1. 訓練フローチャート

1

### 訓練の準備

1. 訓練運営者・参加者等は誰にしますか
2. 訓練日時はいつにしますか
3. 災害の種類や規模、被害を想定してみましよう
4. 訓練内容を決めましよう
5. 避難訓練実施要領を作成しましよう
6. 参加者への広報を行いましよう
7. 避難訓練に必要な資機材を調達しましよう



2

### 訓練シナリオの作成

1. 確認・準備事項
2. 訓練シナリオを作成しましよう

3

### 訓練の実施

1. 実施にあたっての留意事項等
2. 記録を残しておきましよう
3. アンケートの実施



避難訓練の実施状況



4

### 訓練の振り返り

1. 「避難確保計画」への反映

## 1. 訓練の準備

### 1-2. 訓練の概要

#### （１）訓練運営者・参加者等は誰にしますか

訓練運営者、参加機関を決定します。当日訓練に参加してもらいたい機関や団体に対して、参加協力を依頼しましょう。要配慮者の訓練が困難な場合は、職員等が要配慮者を代役することも考えられます。

##### Point

- ・要配慮者の健康状態、通常業務等を考慮しながら、できるだけ多くの方に参加を要請しましょう。
- ・上記の参加者以外に、訓練の状況を客観的に観察・記録する担当も決めましょう。

#### （２）訓練日時はいつにしますか

訓練日時を決定し、中止とする場合の条件等を検討しましょう。

##### Point

- ・訓練当日、気象警報が発令された場合等、事前に中止とする場合の条件等を決めておきましょう。（例：大雨・洪水警報が発令された場合は中止する。）

#### （３）災害の種類や規模、被害を想定してみよう

災害の種類を決定し、災害の被害や規模を検討しましょう。

##### Point

- ・施設の立地場所や周辺状況によって、発生する災害が異なるため、土砂災害に加え風水害も想定する等、必要に応じて決定しましょう。
- ・災害の種類や被害の規模により、訓練の中身が変わってきますので、ハザードマップ等で具体的な被害を想定しましょう。

## 1. 訓練の準備

### （４）訓練内容を決めましょう

訓練内容（訓練種別）を決定しましょう。

本解説書で示す避難訓練シナリオ雛形は、「立ち退き避難（水平避難）を行う場合の避難訓練」、「屋内安全確保（垂直避難）を行う場合の避難訓練」について掲載しています。

#### Point

- 訓練には、情報収集・伝達訓練、保護者・家族等への引き渡し訓練、職員の非常参集訓練等、様々な種類があります。
- 施設の特性を勘案して必要と思われる訓練を実施しましょう。



## 1. 訓練の準備

### （５）避難訓練実施要領を作成しましょう

訓練の概要が固まったら、要領としてまとめましょう。

（作成例）

#### ●●要配慮者利用施設 避難訓練実施要領

##### 1 目的

台風の接近に伴う大雨による土砂災害の発生を想定し、「避難確保計画」に基づく、実践的な立ち退き避難訓練を実施することにより、避難計画を検証するとともに、避難の実効性を高めることを目的とする。

2 実施日時 令和●●年●●月●●日（日） 9時00分～11時30分

##### 3 実施場所

- (1) 本部会場 ●●要配慮者利用施設
- (2) 現地会場 指定避難所 ●●コミュニティーセンター

4 参加機関 ●●要配慮者利用施設  
●●自主防災組織、●●地域住民

##### 5 訓練想定

台風の接近に伴う大雨による土砂災害の発生

※最接近の予定日の前日、台風のスピードが上がり、予想よりも早く災害発生の危険性が高まることが分かったため、前日の日中に利用者の避難誘導を行う。

##### 6 訓練内容

指定避難所まで逃げる立ち退き避難訓練

## 1. 訓練の準備

### （６）参加者への広報を行いましょ

避難訓練実施要領を作成したら、参加者への広報を行いましょ。

#### Point

- ・ 広報の例：避難訓練実施要領の配布、登録メールでの連絡等

### （７）避難訓練に必要な資機材を調達しましょ

施設に備蓄している資機材を確認し、正常に使用できるか点検しましょ。  
正常に使用できない資機材は修理し、不足する資機材は購入または借用しましょ。

（用意する資機材の例）

用途	名称	数量	備考
情報収集	<input type="checkbox"/> テレビ		
	<input type="checkbox"/> ラジオ		
	<input type="checkbox"/> スマートフォン		
	<input type="checkbox"/> パソコン		
	<input type="checkbox"/> 各種バッテリー		
	<input type="checkbox"/> 筆記用具		
	<input type="checkbox"/> ホワイトボード		
避難誘導	<input type="checkbox"/> 名簿（利用者緊急連絡先）		
	<input type="checkbox"/> スマートフォン		
	<input type="checkbox"/> 拡声器		
	<input type="checkbox"/> 一時避難のための食料・水		
	<input type="checkbox"/> 非常時持出品・備蓄品		
	<input type="checkbox"/> 防寒着		
	<input type="checkbox"/> 笛等		
	<input type="checkbox"/> 車イス		
	<input type="checkbox"/> 担架		
	<input type="checkbox"/> 搬送用車両		
	<input type="checkbox"/> 雨具		
	<input type="checkbox"/> ラジオ		
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯		
訓練時	<input type="checkbox"/> ストップウォッチ		
	<input type="checkbox"/> アンケート用紙		
	<input type="checkbox"/> 記録用紙		
	<input type="checkbox"/> カメラ、ビデオカメラ		
	<input type="checkbox"/> ビブス		

## 2. 訓練シナリオの作成

### 2-1. 確認・準備事項

訓練シナリオの作成にあたって、事前に「避難確保計画」等を確認し、以下の事項を把握しておきましょう。

（主な確認事項）

確認欄✓	確認事項
	避難場所
	避難経路・・・※1
	避難方法
	防災体制確立の判断基準
	参加者の役割と行動
	要配慮者の具体的な支援方法・・・※2

#### ※1 避難経路を確認しましょう

自主防災組織・消防団・市町の防災担当者等に関わってもらい、できるだけ多くの人の目で、避難経路や避難場所の周辺を歩いてみましょう。水路や側溝等の危険箇所を把握するとともに、避難に要する時間を記録します。

#### ※2 支援者（地域住民）と打合せをおきましょう

支援者（地域住民）に避難の協力を依頼する場合は、事前に打合せを行いましょう。打合せ時に確認する内容の例を以下に掲載します。

（打合せ内容の例）

・ 利用者の健康状態
・ 利用者の家族の了解
・ 利用者の搬送方法（車いす、担架、搬送用車両等）
・ 避難場所までの安全な経路
・ 持ち出し物（服用している薬、老眼鏡、補聴器等）
・ 避難時の待機方法（畳、布団、椅子、テレビ、ビデオ等）

## 2. 訓練シナリオの作成

### 2-2. 訓練シナリオを作成しましょう

確認事項を把握したら、訓練シナリオを作成しましょう。各参加者が訓練開始から終了までにどういった行動をとっていくのかについて、以降に示すSTEP 1～3の順に、時系列に整理します。

ここでは、本解説書で示す避難訓練シナリオの雛形を用いて作成の流れを解説します。

(訓練シナリオ作成例)

STEP 2 情報付与役、要配慮者利用施設、住民（保護者・家族）、自主防災組織等の役割を記載します。

十砂災害想定訓練シナリオ（立ち退き避難）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	防災体制	情報付与役	要配慮者利用施設				住民 保護者・家族	自主防災組織
					管理権限者	情報収集伝達要員	避難誘導要員	利用者		
8:45		施設待機			訓練開始まで待機					
9:00	①	<訓練開始> 大雨注意報、洪水注意報発表 (警戒レベル2)	注意	屋内放送で職員・利用者へ伝達	注意体制確立指示 →各要員 各要員の招集	注意体制確立の伝達 →職員・利用者 気象情報の収集 利用者名簿等の準備	避難対象者の特定 避難所・避難経路の確認	避難準備		
9:15	②	本部会議開催			情報共有、今後の対応決定					
9:30	③	大雨警報、洪水警報発表 (警戒レベル3)	警戒	屋内放送で職員・利用者へ伝達	警戒体制確立指示 →各要員	警戒体制確立の伝達 →職員・利用者 職員参集連絡 →休憩職員 避難支援要請 →自主防災組織	避難用具器材準備			要配慮者利用施設状況確認
9:45	④	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 要配慮者避難開始		屋内放送で職員・利用者へ伝達	避難開始事前連絡指示 →情報収集伝達要員 利用者の避難誘導指示 →避難誘導要員	避難開始事前連絡 →保護者・家族、市町 避難誘導開始の伝達 →職員・利用者	避難所開設確認 避難誘導開始	避難開始	要配慮者利用施設の避難支援（支援者） 高齢者等避難開始	要配慮者利用施設の避難支援指示 →支援者
10:00	⑤	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 施設内全体避難開始	非常	屋内放送で職員・利用者へ伝達	非常体制確立、施設内全体の避難指示 →各要員	非常体制確立、施設内全体の避難伝達 →職員・利用者、市町	未避難者、要救助者の確認		一般住民避難開始	
10:30	⑥	指定避難所へ完了			避難状況報告指示 →情報収集伝達要員	避難状況報告 →保護者・家族、市町	避難者の体調・要望聞き取り →管理権限者			要配慮者利用施設安全報告 →総務担当
10:45	⑦	避難指示解除 施設周辺巡回、被害状況確認		屋内放送で職員・利用者へ伝達	施設周辺巡回、被害状況確認指示 →避難誘導要員		施設周辺巡回、被害状況確認			
11:00	⑧	帰宅指示 帰宅（保護者・し）開始			帰宅（保護者・家族引き渡し）準備指示 →各要員	帰宅支援要請 →自主防災組織 帰宅事前連絡 →市町	保護者・家族引き渡し 帰宅準備	要配慮者利用施設の帰宅支援（保護者・家族） 要配慮者利用施設の帰宅支援指示 →支援者		
11:15		退避								
11:30										

STEP 1 訓練時間、フェーズ（場面）、進行シナリオの流れ、防災体制を記載します。

STEP 3 参加者の行動を記載します。

## 2.訓練シナリオの作成

### STEP 1 訓練時間、フェーズ（場面）、進行シナリオの流れ、防災体制の記載

事前に想定した災害の種類や規模、被害にそって、「進行シナリオの流れ」を記載します。訓練フェーズの多くは、気象台が発表する防災気象情報や市町が発令する避難情報に基づき実施されることから、進行シナリオの流れの欄に記載します。

「時間」の欄には、実際の訓練に要する時間を記載します。

「フェーズ」の欄には、訓練の段階ごとに番号を振ります。

「防災体制」の欄には、「避難確保計画」に基づき、防災体制確立の判断基準に沿って“注意（体制）”・“警戒（体制）”・“非常（体制）”のいずれかを記載します。

（「進行シナリオの流れ」及び「フェーズ」は、施設の特性に応じて検討し、適宜追加してください。）

（STEP 1 作成例）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	防災体制
8:45		施設待機	
9:00	①	<訓練開始> 大雨注意報、洪水注意報 発表 (警戒レベル2)	注意
9:15	②	本部会議開催	
①		いつ	警戒
9:45	④	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 要配慮者避難開始	
10:00	⑤	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 施設内全体避難開始	非常
10:30	⑥	指定避難所避難完了	

## 2.訓練シナリオの作成

### STEP 2 役割の記載

事前に想定した参加者の役割にそって、シナリオの役割の欄を記載します。

要配慮者利用施設の欄は、「避難確保計画」等に基づき、管理権限者、情報収集伝達要員、避難誘導要員というように細分化すると、それぞれの役割や行動がわかりやすく整理できます。

（役割は、施設で定める役割分担に応じて、適宜追加してください。）

（STEP 2 作成例）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	防災体制	要配慮者利用施設				
				情報付与役	管理権限者	情報収集伝達要員	避難誘導要員	利用者
8:45		施設待機						
9:00	①	<訓練開始> 大雨注意報、洪水注意報発表 (警戒レベル2)	注意					
9:15	②	本部会議開催						
9:30	③	大雨警報、洪水警報発表 (警戒レベル3)	警戒					
9:45	④	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 要配慮者避難開始						
10:00	⑤	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 施設内全体避難開始	非常					
10:30	⑥	指定避難所避難完了						

② 誰が

## 2. 訓練シナリオの作成

### STEP 3 行動の記載

「進行シナリオの流れ」にそって、参加者の行動を記載します。

訓練開始から避難開始、避難完了、帰宅（保護者・家族引き渡し）までに必要な情報付与役、要配慮者利用施設、住民（保護者・家族）等の行動を記載します。避難に要する時間はまちあるき等で把握しましょう。

（STEP 3 作成例）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	防災体制	情報付与役	要配慮者利用施設		
					管理権限者	情報収集伝達要員	避難誘導要員
8:45		施設待機			訓練開始まで待機		
9:00	①	<訓練開始> 大雨注意報、洪水注意報発表 (警戒レベル2)	注意	館内放送で職員・利用者に伝達	注意体制確立指示 →各要員 各要員の招集	注意体制確立の伝達 →職員・利用者 気象情報の収集 利用者名簿等の準備	避難対象者の特定 避難所・避難経路の確認
9:15	②	本部会議開催			情報共有・今後の対応決定		
9:30	③	大雨警報、洪水警報発表 (警戒レベル3)	警戒	館内放送で職員・利用者に伝達	警戒体制確立指示 →各要員	警戒体制確立の伝達 →職員・利用者 職員参集連絡 →各要員	避難用資器材準備
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h3>③ 何をするか</h3> </div>							
9:45	④	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 要配慮者避難開始		館内放送で職員・利用者に伝達	→情報収集伝達要員 利用者の避難誘導指示 →避難誘導要員	→保護者・家族、市町 避難誘導開始の伝達 →職員・利用者	避難所開設確認 避難誘導開始
10:00	⑤	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 施設内全体避難開始	非常	館内放送で職員・利用者に伝達	非常体制確立、施設内全体の避難指示 →各要員	非常体制確立、施設内全体の避難伝達 →職員・利用者、市町	未避難者、要救助者の確認 施設内全体避難開始
10:30	⑥	指定避難所避難完了			避難状況報告指示 →情報収集伝達要員	避難状況報告 →保護者・家族、市町	避難者の体調・要望聞き取り →管理権限者

## 2.訓練シナリオの作成

### STEP 4 シナリオ最終案の作成

無理な行動の見直し、代替手段の検討を行い、最終案を作成します。

(STEP 4 作成例)

時間	フェーズ	防災体制	情報付与役	要配慮者利用施設			利用者	住民 保護者・家族	自主防災組織
				管理権限者	情報収集伝達要員	避難誘導要員			
8:45	施設待機				訓練開始まで待機				
9:00	①	注意	館内放送で職員・利用者に伝達	注意体制確立指示 →各要員 →各要員の招集	注意体制確立の伝達 →職員・利用者 気象情報の収集 利用者名簿等の準備	避難対象者の特定 避難所・避難経路の確認	避難準備		
9:15	②				情報共有・今後の対応決定				
9:30	③	警戒	館内放送で職員・利用者に伝達	警戒体制確立指示 →各要員	警戒体制確立の伝達 →職員・利用者 職員参集連絡 →体職職員 避難支援要請 →自主防災組織 避難開始事前連絡 →保護者、家族、市町 情報収集伝達要員 利用者の避難誘導指示 →避難誘導要員	避難用資器材準備		要配慮者利用施設状況確認	
9:45	④		館内放送で職員・利用者に伝達	避難開始事前連絡指示 →情報収集伝達要員 利用者の避難誘導指示 →避難誘導要員	非常体制確立、施設内全員の避難伝達 →職員・利用者、市町	避難所開設確認 避難誘導開始	避難開始	要配慮者利用施設の避難支援（支援者） 高齢者等避難開始	
10:00	⑤	非常	館内放送で職員・利用者に伝達	非常体制確立、施設内全員の避難指示 →各要員	施設内全体避難開始	未避難者、要救助者の確認		一般住民避難開始	
10:30	⑥			避難状況報告指示 →情報収集伝達要員	避難状況報告 →保護者、家族、市町	避難者の体調・要望聞き取り →管理権限者		要配慮者利用施設安全報告 →総務担当	
10:45	⑦		館内放送で職員・利用者に伝達	施設周辺巡回・被害状況確認指示 →避難誘導要員	施設周辺巡回・被害状況確認				
11:00	⑧			帰宅（保護者・家族引き渡し）準備指示 →各要員	帰宅支援要請 →自主防災組織 帰宅事前連絡 →市町	保護者・家族引き渡し	帰宅準備	要配慮者お迎え（保護者・家族） 要配慮者利用施設の帰宅支援指示 →支援者	
11:15									
11:30									



## 2. 訓練シナリオの作成

### 2-3. 役割別の事前準備のポイント

作成したシナリオの役割別の事前準備のポイント（例）を解説します。

#### 情報付与役

- 館内放送を使用する等の伝達方法を事前に話し合い、決めておきましょう。

#### 管理権限者

- 「避難確保計画」等により、防災体制確立の判断基準や職員の参集体制を確認しておきましょう。
- 本部会議の会議場所をあらかじめ決めておきましょう。
- 本部会議の議題をあらかじめ決めておくとう会議がスムーズに進みます。  
（例）利用者避難の時期、防災体制の確認、職員の参集時期、  
自主防災組織への支援要請時期
- 「避難確保計画」等により、避難・帰宅に必要な職員数を把握し、地域への支援要請を事前に検討しておきましょう。
- 市町への状況報告は、地域に的確な支援を行ううえで重要な情報になります。避難者数や負傷者の状況等迅速にとりまとめ、正確に報告できる体制を整備しておきましょう。
- 日頃から自主防災組織等、地域住民の方々とコミュニケーションをとり、協力体制を確保しておきましょう。

#### 情報収集伝達要員

- テレビ、ラジオ、スマートフォン、パソコン等、情報収集するための媒体を複数用意しておきましょう。また、予備のバッテリーも確認しておきましょう。
- 「避難確保計画」等により、収集する情報と入手手段を確認しておきましょう。
- 利用者の状況を確認するため、利用者名簿等を準備しておきましょう。
- 館内放送で周知する放送内容をあらかじめ決めておきましょう。
- 事前に市町の担当部局や自主防災組織の連絡先および連絡手段を確認しましょう。
- 事前に休暇職員や保護者・家族の連絡先および連絡手段を確認しましょう。

## 2. 訓練シナリオの作成

### 避難誘導要員

- 避難誘導に必要な資機材をあらかじめ用意しておきましょう。
- 避難場所まで車で移動する場合は、効率的に避難誘導を行うために、車を運転する係、施設で車に乗せる係、避難先で車から降りる係といった役割分担を行っておきましょう。
- 保護者・家族への引き渡しについてのルールを確認しておきましょう。

### 利用者

- 避難に必要な持ち出し品をあらかじめ用意しておきましょう。

### 保護者・家族

- 保護者・家族への引き渡しについてのルールを確認しておきましょう。

### 住民（支援者）

- 避難支援に必要な資機材をあらかじめ用意しておきましょう。

### 自主防災組織

- 支援者に要配慮者利用施設の避難支援を指示するため、支援者名簿を用意しておきましょう。
- 訓練当日の避難・帰宅支援に、誰に協力してもらうかあらかじめ決めておきましょう。

## 3. 訓練の実施

### 3-1. 実施にあたっての留意事項等

ここでは、実施にあたっての留意事項等のポイントを解説します。

#### Point

- 事故等への配慮

訓練の実施にあたっては、事故や怪我に気をつけましょう。特に、新型コロナウイルスへの対策、冬期においてはインフルエンザの蔓延、夏期においては熱中症等の危険性が高いので注意を要します。

また、避難訓練が屋外等となる場合は道路や周囲の安全確認を行う等安全確保が大切です。万一の事故に備え、イベント保険等も活用しましょう。

- 訓練の実施・工夫

初めて訓練を実施する場合は、少ない人数で始めてみるのも一つの方法です。その後、参加人数を増員したり、情報伝達訓練等も取り入れたりして訓練内容を充実させていきます。すでに避難訓練を定期的に行っている場合は、地震時に塀が倒れて避難路が使用できなくなることや、停電等のアクシデントを発生させたり、夜間を想定したりする等、様々なケースに対応できるように訓練を工夫しましょう。

避難訓練の実施が困難な場合は、県、市町等の関係機関に相談しましょう。

- 訓練の進行

避難訓練を予定した時間に沿ってやってみましょう。予定通り進まない場合でも、慌てず、反省材料として次の訓練で活かすようにしましょう。

## 3. 訓練の実施

### 3-2. 記録を残しておきましょう

訓練の振り返りを行うために、避難訓練の状況をカメラ、ビデオで撮影し、避難訓練の記録を残しておきましょう。

#### Point

- 訓練に参加される職員の中から、数名の記録者を定めておき、訓練の状況をカメラ、ビデオで撮影してもらいましょう。
- 参加者の役割毎の行動内容、所要時間、良い点、改善点、その他気づいた点等を何でも率直に記録してもらいましょう。
- 訓練後に記録を確認して、訓練の振り返りを実施します。
- 訓練時には、訓練状況の記録で役割が明確になるよう、ビブス（役割等を表示）の着用を推奨します。

### 3-3. アンケートの実施

訓練終了後、参加者にアンケートを実施し、訓練の内容（時間、行動、意識、課題等）についての率直な感想や意見を聞き取りましょう。アンケートの内容を以下に例示します。

（アンケートの内容の例）

- |                                 |
|---------------------------------|
| ①災害時の行動内容を理解し適切に行動できたかの確認       |
| ②災害時の行動内容についての課題（疑問・不明点）および良好な点 |
| ③「避難確保計画」についての改善点               |
| ④設備・施設についての改善点                  |
| ⑤訓練準備についての課題                    |

## 4. 訓練の振り返り

### 4-1. 「避難確保計画」への反映

アンケート結果および訓練の記録をもとに、訓練の参加者で課題・改善点を洗い出しましょう。課題・改善点を洗い出し、必要に応じて、避難訓練シナリオや「避難確保計画」を見直します。

#### Point

- 課題・改善点の洗い出しで出された意見をもとに、必要に応じて避難訓練シナリオや「避難確保計画」を見直し、より実践的で的確な避難が可能となるような防災体制を構築します。

